

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
220331041	臨床医学Ⅱ Clinical Medicine Part II	山口 央輝			2	選択	3前期

科目の概要

本学科では管理栄養士に必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を健康の面から支援することができる管理栄養士の育成を目指す(DP2・3・4)。「人生100年時代」の今、管理栄養士の果たす役割は大きい。食事の摂り方により、健康寿命が変わり得るからである。本科目では「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」について学ぶ「臨床医学」は、管理栄養士の基礎となる科目である。「臨床医学Ⅱ」では、「運動器系疾患」より始まる下記の内容について学ぶ。例えば「病院管理栄養士」は、患者さんの栄養状態を把握・評価し、支援することにより、病態改善に重要な役割を果たす。この学修が、将来の糧となることを願う。

学修内容	到達目標
① 主要疾患の疾病概念と成因を理解する。 ② 主要疾患の病態（自覚症状、他覚症状等）と診断を理解する。 ③ 主要疾患の治療方法を、栄養に重点を置いて理解する。	① 主要疾患の疾病概念と成因を説明できる。 ② 主要疾患の病態（自覚症状、他覚症状等）と診断を説明できる。 ③ 主要疾患の治療方法を、栄養に重点を置いて説明できるとともに、知識を活用して新しい方法を提案できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	関連科目である解剖学や生理学、生化学について復習をし、疑問点を明らかにする。自分で解決を図り、身につけるよう努力する。
	働きかけ力	
	実行力	個々の疾患について理解を深め、臨地実習の場で生かすことができるよう努力する。
考え抜く力	課題発見力	個々の疾患について理解を深め、管理栄養士に求められる役割を考える。
	計画力	予習と復習を通し、能率よく自己学習を進めることができる。
	創造力	他者に発表する場面を想定して、学習内容をまとめ、分かりやすいプレゼンテーション方法を考える。
チームで働く力	発信力	学んだ知識を一般の人たちにもわかるように説明する力を養う。
	傾聴力	相手の話を丁寧に聞き取り、共感を示しながら、相手の考えを汲み取る力を養う。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	定められた期限内にレポートを提出し、意欲を持って講義に参加する。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：羽生大記・河手久弥編、臨床医学-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
 ※ 関連資料および復習問題プリントは適宜配布する。
 関連資料の配布は、Google classroom を中心に行う。

他科目との関連、資格との関連

解剖生理学、生化学、および解剖生理学実習の学修を基盤として、臨床医学Ⅰに続き、臨床医学Ⅱを学ぶ。
 臨床医学Ⅱは臨床栄養学とも関連があり、専門実践実習の基礎となる。
 ※資格との関連：管理栄養士、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
①解剖学、生理学、生化学の知識を十分理解し授業に臨む。 ②小テストの解説ポイントは、赤ペンを用いてその場で書き込む。 ③返却された答案の復習はその日のうちに行う。	①学修に使用する電子デバイス(スマホ、タブレット、PC等)は積極的に活用すること。 ②テキストと配布したプリント及び赤ペンは毎回持参する。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	80	①	✓	主要疾患の疾病概念、成因、病態、治療等について理解し、栄養との関係を説明できる。 授業で学んだ内容の理解度を、客観式テストにより評価する。 知識の獲得：（疾患の病因・病態など）50%、 知識の活用：（疾患に伴う症状・検査所見・治療法など）30%、 知識の解決：（疾患に伴う生活への影響、栄養上の対処方法など）20% 以上の内容の筆記試験で60%以上の得点を合格とする。	
			②	✓		
			③	✓		
	平常評価	小テスト	10	①	✓	毎週の小テストは、授業中または終了時に、授業内容について客観式確認テストを行う。 以上により、主要疾患の疾病概念、成因、病態、治療等の基本的用語を理解できているか確認する。 知識の獲得：（疾患の病因・病態など）50%、 知識の活用：（疾患に伴う症状・検査所見・治療法など）30%、 知識の解決：（疾患に伴う生活への影響、栄養上の対処方法など）20% 以上の内容の筆記試験で60%以上の得点を合格とする。
				②	✓	
				③	✓	
平常評価	レポート	0	①			
			②			
			③			
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
			②			
			③			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）自ら知識を深める姿勢・行動がみられること （実行力）自己の学修目標を見据え、努力する姿勢が見られること。 （課題発見力）個々の疾患について理解を深め、管理栄養士に求められる役割を考えられること。 （計画力）能率的に自己学習ができること。 （創造力）他者に発表する場面を想定し、分かりやすいプレゼン方法が考えられること。 （発信力）専門知識を一般の人にも理解できるように説明する力を持っていること。 （傾聴力）相手の話を理解し、相手の考えを汲み取る力を持っていること。 （規律性）定められた期限内にレポートを提出し、意欲的に講義に参加すること。	
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①主要疾患の疾病概念、成因、病態、治療等について正しく理解し説明できること。 ②主要疾患の疾病者に対する栄養指導との関係を説明できること。 S（秀）＝①＋②、A（優）＝①または②	①主要疾患の疾病概念を説明できること。 ②主要疾患の成因、病態、治療等の基本的用語を記述でき説明できること。 B（良）＝①＋②、C（可）＝①

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○第11章 運動器疾患 Part1 (235頁～242頁) 骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、変形性関節症	講義 復習テストと解説 ディスカッション	骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、変形性関節症について理解し、説明できる。	予習→テキスト第11章(235頁～242頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2	○第11章 運動器系疾患 Part2 (242頁～247頁) 関節リウマチ、フレイル、サルコペニア、ロコイブシンドローム	復習テストと解説 講義 ディスカッション	関節リウマチ(RA)、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解し、説明できる。	予習→テキスト第11章(242頁～247頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
3	○第6章 循環器系の疾患 Part1 (133頁～143頁、149頁～151頁) 循環障害、高血圧・不整脈	復習テストと解説 講義 ディスカッション	循環障害(虚血、充血、うっ血、血栓、塞栓)、動脈硬化、高血圧、不整脈について理解し、説明できる。	予習→テキスト第6章(133頁～143頁、149頁～151頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
4	○第6章 循環器系の疾患 Part2 (144頁～149頁、153頁～156頁) 虚血性心疾患・心不全	復習テストと解説 講義 ディスカッション	狭心症、心筋梗塞、冠攣縮性狭心症、心不全について理解し、説明できる。	予習→テキスト第6章(144頁～149頁、153頁～156頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
5	○第6章 循環器系の疾患 Part3 (151頁～153頁、156頁～159頁) 肺塞栓、脳血管障害	復習テストと解説 講義 ディスカッション	肺塞栓、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作について理解し、説明できる。	予習→テキスト第6章(151頁～153頁、156頁～159頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
6	第10章 呼吸器疾患 Part1 (217頁～228頁) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)とアシドーシス・アルカローシス	復習テストと解説 講義 ディスカッション	慢性閉塞性肺疾患(COPD)およびアシドーシス・アルカローシスについて理解し、説明できる。	予習→テキスト第10章(217頁～228頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
7	○第10章 呼吸器疾患 Part2 (228頁～233頁) 気管支喘息、肺炎	復習テストと解説 講義 ディスカッション	気管支喘息の病態と診断、および肺炎について理解し、説明できる。	予習→テキスト第10章(228頁～233頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
8	○第5章 消化器疾患 Part1 (107頁～116頁) 消化管疾患(口内炎、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、イレウス、便秘)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	口内炎、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、イレウス、便秘の病態について理解し、説明できる。	予習→テキスト第11章(107頁～116頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○第5章 消化器疾患 Part2 (117頁～119頁) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	潰瘍性大腸炎、クローン病について理解し、説明できる。	予習→テキスト第5章(117頁～119頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
10	○第5章 消化器疾患 Part3 (116頁、119頁、128頁～131頁) 消化管疾患(たんぱく漏出性胃腸症、過敏性腸症候群、胆石症、胆嚢炎、膵炎)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	たんぱく漏出性胃腸症、過敏性腸症候群、胆石症、胆嚢炎、膵炎について理解し、説明できる。	予習→テキスト第5章(116頁、119頁、128頁～131頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	○第5章 消化器疾患 Part4 (123頁～128頁) 肝疾患(肝炎、肝硬変、脂肪肝、NAFLD、NASH)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	肝炎、肝硬変、脂肪肝、NAFLD、NASHの成因・病態について理解し、説明できる。	予習→テキスト第5章(123頁～128頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
12	○第8章 内分泌疾患 Part1 (185頁～188頁、196頁～197頁) 視床下部・下垂体疾患および副甲状腺機能亢進症・低下症	復習テストと解説 講義 ディスカッション	先端巨大症、プロラクチノーマ、尿崩症、SIADH、副甲状腺機能亢進症・低下症にかかわるホルモンの作用と病態について理解し、説明できる。	予習→テキスト第8章(185頁～188頁、196頁～197頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
13	○第8章 内分泌疾患 Part2 (189頁～191頁) 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症について理解し、説明できる。	予習→テキスト第8章(189頁～191頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
14	第8章 内分泌疾患 Part3 (191頁～193頁) 副腎疾患(アルドステロン症、褐色細胞腫)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	アルドステロン症と褐色細胞腫について理解し、説明できる。	予習→テキスト第8章(189頁～191頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
15	○第8章 内分泌疾患 Part4 (194頁～196頁) 副腎疾患(クッシング症候群、アジソン病、先天性副腎過形成症)	復習テストと解説 講義 ディスカッション	クッシング症候群(クッシング病、医原性クッシング症候群)、アジソン病、先天性副腎過形成症について理解し、説明できる。	予習→テキスト第8章(194頁～196頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
	1					

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
220332042	臨床医学Ⅲ Clinical Medicine Part III	山口 央輝			2	選択	3後期
科目の概要							
本学科では管理栄養士に必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を健康の面から支援することができる管理栄養士の育成を目指す(DP2・3・4)。「人生100年時代」の今、管理栄養士の果たす役割は大きい。食事の摂り方により、健康寿命が変わり得るからである。本科目では「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」について学ぶ「臨床医学」は、管理栄養士の基礎となる科目である。「臨床医学Ⅲ」では、「血液系疾患」より始まる下記の内容について学ぶ。例えば「病院管理栄養士」は、患者さんの栄養状態を把握・評価し、支援することにより、病態改善に重要な役割を果たす。この学修が、将来の糧となるよう、取り組んで欲しい。							
学修内容				到達目標			
① 主要疾患の疾病概念と成因を理解する。 ② 主要疾患の病態（自覚症状、他覚症状等）と診断を理解する。 ③ 主要疾患の治療方法を、栄養に重点を置いて理解する。				① 主要疾患の疾病概念と成因を説明できる。 ② 主要疾患の病態（自覚症状、他覚症状等）と診断を説明できる。 ③ 主要疾患の治療方法を、栄養に重点を置いて説明できるとともに、知識を活用して新しい方法を提案できる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	関連科目である解剖学や生理学、生化学について復習をし、疑問点を明らかにする。自分で解決をはかり、身につけるよう努力する。					
	働きかけ力						
	実行力	個々の疾患について理解を深め、臨地実習の場で生かすことができるよう努力する。					
考え抜く力	課題発見力	個々の疾患について理解を深め、管理栄養士に求められる役割を考える。					
	計画力	予習と復習を通し、能率よく自己学習を進めることができる。					
	創造力	他者に発表する場面を想定して、学習内容をまとめ、分かりやすいプレゼンテーション方法を考える。					
チームで働く力	発信力	学んだ知識を一般の人たちにもわかるように説明できる。					
	傾聴力	相手の話を丁寧に聞き取り、共感を示しながら、相手の考えを汲み取ることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	定められた期限内にレポートを提出し、意欲を持って講義に参加する。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：羽生大記・河手久弥編、臨床医学-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂） ※関連資料および復習プリントを適宜配布する。 関連資料の配布は、Google classroom を使用して行う。							
他科目との関連、資格との関連							
臨床医学I・IIの学修を基盤として、臨床医学IIIを学ぶ。 この科目は、管理栄養士特論A・B・C、および卒業研究に繋がる。 資格との関連：管理栄養士							
学修上の助言				受講生とのルール			
①解剖学、生理学、生化学の知識を十分理解し、授業に臨む。 ②復習テストの解説ポイントは、赤ペンを用いて、その場で書き込む。 ③返却されたテストは、その日のうちにもう一度見直す。				①学修に使用する電子デバイス(スマホ、タブレット、PC等)は積極的に活用すること。 ②テキストと配布したプリント及び赤ペンは毎回持参すること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	80	①	✓	主要疾患の疾病概念、成因、病態、治療等について理解し、栄養との関係を説明できる。 授業で学んだ内容の理解度を、客観式テストにより評価する。 知識の獲得：（疾患の病因・病態など）50%、 知識の活用：（疾患に伴う症状・検査所見・治療法など）30%、 知識の解決：（疾患に伴う生活への影響、栄養上の対処方法など）20% 以上の内容の筆記試験で60%以上の得点を合格とする。	
			②	✓		
			③	✓		
	平常評価	小テスト	10	①	✓	前の講義が理解できているか確認するため、毎時間の始まりに復習テスト（客観式）を行う。返却された日に、必ずもう一度見直し、期末試験に生かして欲しい。 知識の獲得：（疾患の病因・病態など）50%、 知識の活用：（疾患に伴う症状・検査所見・治療法など）30%、 知識の解決：（疾患に伴う生活への影響、栄養上の対処方法など）20% 以上の内容の筆記試験で60%以上の得点を合格とする。
				②	✓	
				③	✓	
		レポート	0	①		
				②		
③						
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
		②				
		③				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）自ら知識を深める姿勢・行動がみられること （実行力）自己の学修目標を見据え努力する姿勢が見られること。 （課題発見力）個々の疾患について理解を深め、管理栄養士に求められる役割を考えられること。 （計画力）能率的に自己学習ができること。 （創造力）他者に発表する場面を想定し、分かりやすいプレゼン方法が考えられること。 （発信力）専門知識を一般の人にも理解できるように説明する力を持っていること。 （傾聴力）相手の話を理解し、相手の考えを汲み取る力を持っていること。 （規律性）定められた期限内にレポートを提出し、意欲的に講義に参加する。	
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①主要疾患の疾病概念、成因、病態、治療等について正しく理解し説明できること。 ②主要疾患の疾病者に対する栄養指導との関係を説明できること。 S（秀）＝①＋②、A（優）＝①または②	①主要疾患の疾病概念を説明できること。 ②主要疾患の成因、病態、治療等の基本的用語を記述でき説明できること。 B（良）＝①＋②、C（可）＝①

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○第13章 血液系疾患 Part1 (269頁～279頁) 貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、腎性貧血)	講義 復習テストと解説 ディスカッション	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、腎性貧血について理解し、説明できる。	予習→テキスト(269頁～279頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2	○第13章 血液系疾患 Part2 (279頁～282頁) 出血性疾患(特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、血友病)	講義 復習テストと解説 ディスカッション	特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、血友病の病態について理解し、説明できる。	予習→テキスト(279頁～282頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
3	○第13章 血液系疾患 Part3 (283頁～286頁) 白血病(急性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群)	講義 復習テストと解説 ディスカッション	急性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群について理解し、説明できる。	予習→テキスト(283頁～286頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
4	○第7章 腎・尿路系疾患 Part1 (161頁～172頁) 急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群	講義 復習テストと解説 ディスカッション	急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群について理解し、説明できる。	予習→テキスト(161頁～172頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
5	○第7章 腎・尿路系疾患 part2 (172頁～176頁) 急性・慢性腎不全	講義 復習テストと解説 ディスカッション	急性・慢性腎不全について理解し、説明できる。	予習→テキスト(172頁～176頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
6	○第7章 腎・尿路系疾患 Part3 (176頁～179頁) 慢性腎臓病(CKD)	講義 復習テストと解説 ディスカッション	慢性腎臓病(CKD)の病態について理解し、説明できる。	予習→テキスト(176頁～179頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
7	第7章 腎・尿路系疾患 part4 (179頁～183頁) 透析の原理、導入基準、合併症、尿路結石	講義 復習テストと解説 ディスカッション	血液透析と腹膜透析、合併症、尿路結石について理解し、説明できる。	予習→テキスト(179頁～183頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
8	○第14章 免疫・アレルギー疾患 Part1 (289頁～296頁) アレルギー反応、食物アレルギー	講義 復習テストと解説 ディスカッション	アレルギー反応を4分類できる。 食物アレルギー、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、口腔アレルギー症候群について理解し、説明できる。	予習→テキスト(289頁～296頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○第14章 免疫・アレルギー疾患 Part2 (296頁～300頁) 膠原病、自己免疫性疾患、免疫不全	講義 復習テストと解説 ディスカッション	橋本病、バセドウ病、関節リウマチ、全身性エリマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群について理解し、説明できる。	予習→テキスト(296頁～300頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
10	○第15章 感染症：総論 (301頁～310頁) 感染症の成因・病態・診断・治療	講義 復習テストと解説 ディスカッション	病原体の分類、感染の成立、人獣共通感染症、性行為感染症、日和見感染と院内感染、新興感染症、再興感染症について理解し、説明できる。	予習→テキスト(301頁～310頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	○第15章 感染症：各論 (310頁～314頁) 代表的な感染症 化学療法、薬剤耐性	講義 復習テストと解説 ディスカッション	主要な感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、結核、コレラ、水痘、手足口病、ノロウイルス)、化学療法、薬剤耐性について理解し、説明できる。	予習→テキスト(310頁～314頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
12	○第12章 生殖系疾患 Part1 (249頁～264頁) 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠悪阻、子宮筋腫、子宮内膜症、更年期障害	講義 復習テストと解説 ディスカッション	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠悪阻、子宮筋腫、子宮内膜症、更年期障害について理解し、説明できる。	予習→テキスト 249頁～264頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
13	○女性特有のがん、男性特有の疾患とがん 子宮頸がん、子宮体がん、乳がん(第16章 324頁～328頁) 前立腺肥大症(第12章 264頁～267頁)、 前立腺がん(第16章 328頁～330頁)	講義 復習テストと解説 ディスカッション	子宮頸がん、子宮体がん、乳がん、前立腺がん、前立腺肥大症について理解し、説明できる。	予習→テキスト(324頁～328頁、264頁～267頁、328頁～330頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
14	○第16章 悪性腫瘍 Part1 (315頁～320頁) 食道がん、胃がん、大腸がん	講義 復習テストと解説 ディスカッション	食道がん、胃がん、大腸がんについて理解し、説明できる。	予習→テキスト(315頁～320頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
15	○第16章 悪性腫瘍 Part2 (320頁～324頁、331頁～332頁) 肝臓がん、膵がん、肺がん、甲状腺がん	講義 復習テストと解説 ディスカッション	肝臓がん、膵がん、肺がん、甲状腺がんについて理解し、説明できる。	予習→テキスト(320頁～324頁、331頁～332頁)を読み、疑問点を把握する。 復習→復習テストをもう一度見直す。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力